

海洋博公園内のヤシガニ生息調査

(財) 海洋博覧会記念公園管理財団 研究第一課 ◎○戸田 実
研究第一課 岡 慎一郎
魚類課 松崎 章平

1. 目的

ヤシガニは陸棲最大の甲殻類で、主に沖縄島以南に生息し、食用等による乱獲や生息域の消失により絶滅の危険性が増大している。海洋博公園では本種が頻繁に確認されており、分布の北限近くにおける唯一のまとまった個体群と判断された。本調査は、当個体群の北限での本種の生態及び生息状況の調査を行い、その保全に寄与すると共に、今後の公園管理に資する事を目的とする。

2. 内容

平成 18 年度から継続的に海洋博公園内のヤシガニの分布状況等の調査を実施し、平成 22 年度には繁殖状況調査等の調査項目を追加した。

3. 結論

調査の結果、以下に示す生態・生息情報等が得られた。

- ・ ヤシガニの確認位置は、自然環境が多い海岸樹林で集中して確認された。
- ・ 11 月～4 月までの約半年間、園内で越冬している（一カ所、一個体の確認）。
- ・ ヤシガニの甲殻の紋様による個体識別が可能で（新規技術）、その個体識別情報を基とした解析の結果、園内の推定生息数は約 780 個体、推定行動範囲は 200m 程度に限定されていた。
- ・ 海岸樹林周辺にはヤシガニ調査中に、クロイワトカゲモドキ、オリーブオコウモリ等の希少種も頻繁に確認された。

以上の結果から、海洋博公園には自然環境が多い海岸樹林を中心に 7～800 個体が生息していると推定された。また、この規模の個体群は沖縄本島では希であり、存続要因として以下の事項が挙げられる。

- ・ 1975 年の国際海洋博覧会開催以降、海岸を含めた環境が公園として約 37 年管理されてきた。
- ・ ヤシガニの主な行動時間である夜間、一般の方の公園内への立ち入りが制限され、人為的影響が長年にわたって低減されてきた。
- ・ 園内には、食物となるアダン等の結実樹が豊富にあり、また隠れ場所も十分にある。

以上のように、海洋博公園にはヤシガニ等希少種が自然に近い状態で生息していることが確認された。

4. 今後の問題点

平成 18 年から 5 年間、公園内のヤシガニについて調査してきたが、越冬情報、繁殖（交尾、放仔等）、稚ヤシガニの状態など、未確認や観察例数の少なさ等があり、引き続き調査を行い新たな知見とする。

また、海洋博公園のヤシガニは、世界最北端に生息する一群と考えられ、今後これを保つと共に、その活用も視野に入れた管理の継続・強化が有効と考える。